

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 放課後等デイサービス あゆっこ江津			
○保護者評価実施期間	R6年10月26日		～	R6年11月29日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	79名	(回答者数)	75名
○従業者評価実施期間	R6年10月26日		～	R6年11月29日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数)	4名
○訪問先施設評価実施期間	年 月 日		～	年 月 日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)		(回答数)	
○事業者向け自己評価表作成日	R6年12月26日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員と1対1の個人プログラムによる活動。	机の配置、座る位置、スケジュールの表示の仕方、課題の内容や使用する教材について、一人一人の特性や発達段階、興味関心、その日の状態に合わせた取り組みができる。	一人一人の特性に合ったより良い支援ができるように、専門性を高める。
2	保護者と一緒に通園。	活動の様子を同室、またはマジックミラー越しに見学することができ、活動環境や支援方法、活動内容、子どもの様子などを直接見ることができる。活動終了後には、様子などを直接保護者に伝えることができる。	今後は、ペアレントトレーニングによる保護者支援や保護者同士が交流を図れるような場の提供を検討する。
3	医療との連携。	主治医やリハビリスタッフと、子どもについての情報共有ができ、様々な視点を持って支援ができる。また、主治医から、活動を行なう上での指示があり、具体的に取り組むことができる。	電子カルテの導入に伴い、より密な情報共有や連携を図る。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	非常時発生の備えやマニュアル等についての周知ができていない。	重要事項説明書を説明する際に、非常時の備え、避難訓練の有無などについてお伝えしているが、実際に訓練の場に遭遇する機会が少ないため、イメージしにくい。	重要事項説明書を説明する際、丁寧で分かりやすい説明に心掛ける。また、ホームページからリンク付けし、マニュアルをいつでも読めるようにする。
2	会報やホームページ等で活動概要や行事予定等の情報の発信や事業所の自己評価の結果公表についての周知ができていない。	事業所の会報やホームページではなく、法人全体の会報やホームページのため、事業所からの発信、周知する意識が低い。 自己評価については、公表する旨を保護者へお伝えしているが、周知が足りていない。	会報やホームページについてはLINEやQRコード、掲示板への掲示で情報を発信していけるようにする。自己評価の結果公表については、評価をしてもらう時と、集計結果をお伝えする時に、公表する旨をお伝えし、周知してもらう。
3	支援開始前や終了後に、職員間でその日の打ち合わせや振り返りなどを行なうことが難しい。	個人プログラムのため、一人一人の活動内容を打ち合わせたり確認したりすることが難しい。 その日の来園人数や変更等は把握している。	職員一人でケースを抱え込まないように、日々の情報共有や定期的な話し合いを行ない、職員間で子どもの様子が把握できるようにしておく。